



# 同友しずおか

題字：塩崎敬子氏 三島支部



## 私の逸品

日本の伝統文化「畳」を支える

### (株) 杉本商店

詳細はWEBで!

(伊東支部)

静岡同友会

検索

### 特集

## 青年経営者全国交流会 in 山梨

# 人は石垣 人は城 今こそ実践! 人間尊重の経営

会員訪問記

石川 英章氏 ISHIKAWA-LABO・三島支部 吉川 真実氏 保坂シール印刷(株)・静岡支部

シリーズ

経営指針 ~激動の時代の羅針盤~ 中村 佐和子氏 (有)フラワーサーカス・静岡支部

その他  
主な内容

食と農研究会主催 マイナンバー制度勉強会、経営指針を創る会 一泊研修、富士支部見学例会、御殿場支部30周年記念事業、支部だより、新入会員紹介、時評、友達の輪、イントロin同友会

### 平成27年度 重点課題

- ① 経営指針を成文化し、社員との共有・実践で、時代に対応する強靱な企業づくりを進めます。
- ② 中小企業憲章推進の運動を広げ、中小企業振興基本条例制定をめざします。
- ③ 元気な企業と地域をつくるため、会員増強目標1200名を早期に達成します。

# 人は石垣 人は城

## 今こそ実践！ 人間尊重の経営

9月10～11日、甲府富士屋ホテル他3会場にて第43回青年経営者全国交流会（略称・青全交）が行われ、全国から1,206名、静岡同友会から23名が参加しました。

1日目は「青年部活動による気付きから、自らが変わり、会社が良くなっていく」「変革と継承～みなさんへの期待」などをテーマに、見学分科会を含む15の分科会が行われました。分科会終了後の懇親会では、宮澤洋一・経済産業大臣から「中小企業の経営者には常に新しいことに挑戦してほしい。そしてひらめきを我々に寄せて欲しい」と挨拶がありました。

2日目の全体会では冒頭で鋤柄修・中同協会長が「全国交流会への参加意義は、経営者同士の人脉づくりと自らの課題を持ち寄ることで、課題解決のヒントを得られること。若い人同士、または経験豊富な年配経営者と繋がり、課題解決のヒントを得て、ぜひ自社で実践することを心に誓ってください」と挨拶しました。特別報告では田山講堂・中同協顧問が「労使見解の今日的意義」をテーマに報告。記念講演では「弱者集団で高齢化社会に挑む」をテーマに澤登拓氏（㈱フレアス・山梨同友会）が、創業からの経緯、そして同友会との出会いと学びを実践した経営による会社の変化と発展について報告しました。

最後に、山梨青全交実行委員長の北原正倫氏から、次回開催地である石川同友会の青全交実行委員長、山下勝巳氏へバトンを引き渡し、閉会となりました。



### 第1分科会 ～青年部活動と企業づくり～

#### 青年部活動による気付きから、 自らが変わり、会社が良くなっていく！

コーディネーター：早間 雄大氏（㈱クニヨシ・広島同友会）  
パネリスト：三角 武一郎氏（㈱KSP・埼玉同友会）、中野 愛一郎氏（㈱イベント・トゥエンティ・ワン・奈良同友会）、松本 勝彦氏（松本ギフト㈱・広島同友会）

全国から若手の会員が多数参加する青全交は、他の全国大会とは違う熱気に包まれていました。私の参加した第一分科会は、全国の青年部活動の在り方や実例等を学ぶ分科会でした。他県では40歳までを「青年部」とするところが多いようで、今年50歳を超えた私はバズの時「先輩」というあだ名で呼ばれてしまいました。20～30代の会員が多かったのですが、全国大会に参加するだけあって、同友会に対する関わり方や考え方は、かなり真剣な方ばかりでした。若手会員からは「青年部は同世代の人間で構成されるので、経営に対しての悩みや将来に対するビジョンなどを語り合う上でかなり頼りになる」という意見が多くありました。もちろん、年齢に関係なく行われる例会の必要性を認識しつつも、入会して間もなく「経営理念とはなに？」「労使見解ってなに？」という基本的なことを学ぶ場として、青年部のような組織は必要ではないだろうか、という若手会員の意見

が多かったように思えます。今回で3回目の青全交への参加でしたが、年齢に関係なく若手経営者の意見を聞く場に身を置くと、若返った気になります。夜の街でも同友会の会員が多く、甲府の街は同友会の熱気で溢れかえっていたようです。同じ店で他県の会員や静岡の仲間と遅くまで語り合うのも、全国大会の醍醐味ではないでしょうか？

若杉 幸秀氏（㈲ティーパワー・静岡支部）

### 第3分科会 ～人を生かす経営～

#### 経営者の成長こそ会社の成長！ 共に育つ為の学びの実践

報告者：石川 祐輔氏（㈱カナマル 代表取締役社長・愛知同友会）

社員の「あなたしか出来ない事だから、戻ってきて下さい」の一言で、報告者の石川氏がサラリーマンから家業に戻ったのは2010年。そこには苦難の道が待ち受けていました。会社はリーマンショック等の影響で65%売上減。この危機的状況を何とかしようと様々な提案をするもことごとく拒否され、仕事に対して無気力に。そして逃げ出そうとしている自分に気付いた時、同友会に出会います。先輩経営者との出会い、そして実践と行動による自己変革。やがて「経営者になる覚悟とその責任」が不可欠と気付かされます。先代もそ

の萌芽を見抜いたのか、突然の社長交代。決意表明として経営理念をつくるも、漠然としていて最初は社員に浸透しません。すると「熱意は人を動かす！そして続けることが大切だ」と経営指針の成文化に取り組み、社員と共に考えたそうです。独り善がりではなく具体的に共感・共有できる理念を作ることで、皆の足並みが揃い、良い波紋が広がる。社内アンケートを取り、良い会社にしていく為の課題を炙り出したことも、その取り組みのひとつでした。ひとつひとつの行動に籠めているという「皆の大好きな会社を社員と共に作り上げたい」という想いは、まさしく人間尊重の精神ではないでしょうか。

今ある課題も、社長の覚悟と社員の想いにより大幅に改善しているそうです。「社員を尊重し信頼し続けることで人が育ち、会社が維持発展する。そう信じ続けることが最も大切だ」という言葉が強く印象的でした。

大澤 秀明氏 (有)オオサワ商会・富士宮支部

## 第11分科会 ～変革と継承～

### これが私の生きる道 中小企業家としての私の使命

報告者：石川 眞樹氏 (有)マキプランニング 代表取締役・茨城同友会

報告者の石川眞樹氏は、茨城にて外構設計・施

工、造園、雑貨販売の事業をしています。27歳で独立・起業した女性経営者が、経営理念の実践から、自社と自分のあり方を考えていきます。同友会で創った経営理念を実践する中で「理念さえあれば経営はうまくいく」ということが幻想だと知った石川氏。日々起こる様々な問題を理念からぶれずに経営していくには、社員との共有が一番重要だと語ります。経営理念とビジョンは異なるもの。そこで理念から導き出した10年後の夢。その物語を社員と共に一枚の絵にします。社員が実名で登場する未来ビジョンの絵で共有を図りながら、社員の特性を活かせるセクションを新設していきます。順調に行き始めたように思われた最中、東日本大震災に見舞われます。震災で気づいた、地域と共に生きているということ。個人も、会社も。そして、石川氏は『まちづくり会社』という別法人で、住んでいる町を花いっぱいにするという新しいプロジェクトをスタートします。この活動が自身の生きる道を示してくれたライフワークだと語ります。「あなたの役割・使命に気づいていますか？」バズで問いかける氏の言葉は、中小企業の経営者がなすべき地域での関わり方を考えさせるものでした。地域を知り、地域を愛する、そんな会社が多く存在することが、本当の社会貢献になるように思える報告でした。

寺田 卓正氏 (株)ニューウェーブ・志太支部

## 食と農研究会 主催勉強会

### 「マイナンバー制度」を考える

9月24日(木) 同友会事務局 参加20名



講師に丸山博氏 (有)第一コンサルティング・オブ・ビジネス・東京同友会) を迎え、マイナンバー制度の基本的なことを学ぶ勉強会が開かれました。丸山氏は現在、東京同友会でも勉強会を開催しています。その内容を基とし、講話してくださいました。

マイナンバー制度とは何なのか、住基カードとの違いは何か。また、この制度の目的が「行政運営の効率化、公平・公正な給付と負担の確保、国民の負担軽減と利便性向上」にあること、当面の利用範囲は税制、社会保障、災害対策、預貯金付番、医療・介護・健康情報の管理と相互利用であること、近い将来に戸籍に関する事務や旅券事

務、自動車登録へ利用拡大の可能性があるということ。その他、各種申請や申告などの手続きが簡単になる、より正確な給付につながるといったメリット、膨大な導入コストや情報漏洩リスク、企業の管理コストと危険負担リスクといったデメリットについて学ぶ中で、個人の手続き等の負担軽減と我々企業に掛かる負担の大きさを教わりました。

具体的にはいつから・どんな方法で行われるのか、我々企業はどのような準備を行う必要があるのかを、分かりやすく学ぶことができました。この制度が開始されることで、今後具体的な問題や課題が出てくることと思います。幾つかの支部では、今後の例会の中で勉強会を開く予定もあるようです。制度の変更という経営環境の変化に備え、このような場で学んでいきたいと思いました。

大石 貴啓氏 (タイケイ)株・志太支部

# 支部だより

富士宮例会

## 振興条例と中小企業家が地域の未来を変える ～ゾットとする未来に立ち向かうために～

9月4日(金) 志ほ川バイパス店 参加45名

穂坂勝彦氏(富士宮清掃(有))から、閉塞感が漂う現在や、将来における不安材料の報告と、これからのあるべき地域の姿についての報告をしていただきました。続いて、富士宮市でも今年4月に中小企業振興基本条例が施行されましたが、この条例を生きたものにするためにはどうすれば良いのか、私たちは何をすべきかについてバズセッションを行いました。

今回はバズセッションに重点を置き、通常の倍の60分間話し合いました。会員の皆さんの率直な不安や、それに対して同友会の学びを基に実践している事など、深い意見が多く出されました。時間のたつのも早く、充実したバズができたのではないのでしょうか。

中小企業振興基本条例という理念型条例を、いかに実のある物にしていくかというのは、同友会における日々の学びと実践が大事という結論に至りました。また、会員の皆様がこの会社・街を心から愛していることもバズの中で感じる事が出来、その気持ちが条例をより良いものにできるのではないかと感じる事が出来ました。

西鮎 亮貴氏(株)富士山ドリームビレッジ・富士宮支部)

沼津例会

## “好き”を仕事に。 ニッチな世界で目指す強く無敵の会社づくり

9月16日(水) VILLA EFFE 参加68名



大神田 浩司氏

音楽をキーワードに衣料品小売業を営む報告者の大神田浩司氏(株)ヒッピーズ)は、卒業後、サラリーマンとして就職するもチャンスを得、起業します。その後も知恵を出しながら順調に出店していったものの、リーマンショックに始まり、東日本大震災、富士宮

地震と外部環境の激変に襲われていきます。経営も非常に苦しい中、奇跡的に無傷で残った店舗を見て再度、前を向いて進み始めます。自分自身が24時間365日戦い続けられるもので勝ち残っていこう、同時に強い会社を創っていこうという新たな想いをもち、商品戦略、働きやすい職場作りを長期ビジョンに基づいて、社員と共に創っている実践報告でした。

大神田氏の発表の中にもあったのですが、「思考は現実化」します。最新の脳科学でも明確にイメージできたものは実現するという報告もあります。バズセッションの中で一人ひとりが語った「10年後の自社の姿」の実現に向け、「そのために、明日から最初の一步は何をするか?」を自らに問う例会となりました。

梶川 久美子氏(サツマ電機株)・沼津支部)

静岡例会

## 経営指針で会社は塗り変わった ～指針を作って5年。計画通りに進んだ悪戦苦闘の記録～

9月8日(火) ペガサート 参加68名



久高 洋司氏

今月の報告者である久高洋司氏(株)高栄塗装)は、経営指針を創る会第6期の同期生です。久高氏のこの6年間は、まさに経営指針の成文化とその実践のお手本です。26歳で塗装業を始めたものの無計画、5,000万円もの売上にもかかわらず何も残せない状態で、ただ忙しいだけの毎日に

将来への不安を感じていました。そのような時に、同友会と創る会に入りました。経営指針を成文化することで基本方針が明確になり、5年計画を立て「健全で前向き、そして人間性を高めあう職場づくりをめざし社員教育を行う」と覚悟を決めました。社員が辞めてもいい、一人になってもやり通す、と腹を括り、まず月一度の社内定例会を始めました。3年間は社員との衝突の場、批判の場であり、やる意味がないと言われ眠れない夜を過ごすこともある中、やり通しました。やがて、社長が変わり、社員が変わり、会社が変わりました。自ら考え責任を持って、しかも明るく働く社員が成長し、次の段階に向けて今新たな挑戦を始めています。

望月 宣典氏(清水クレジット株)・静岡支部)

浜松例会

## 新入会員さん、出番です!

9月16日(水) Dexi 参加12名



9月入会の  
尾平 幸宏氏

報告者は、IT系技術研修サービスを主業務とする阪西敏治氏(株)エーグッド)と、障害者就労支援事業や高齢者通所介護事業等を行う尾平幸宏氏(株)ユーモア)。8月と9月に入会した二人が自社事業の概要・経営課題・同友会に期待することを報告した後、

「経営者と従業員の意識のギャップを縮めるには」というバズテーマで討論しました。

求人課題として挙げる阪西氏、教育を課題として挙げる尾平氏。新たに同友会の仲間となった二人の報告からは、経営者として成長したいという意欲と、その為の場としての同友会への期待が感じられました。皆が「よい会社・よい経営者」を目指して成長できるよう、その柱となる例会を、浜松支部の皆の力により良いものにしていきたいと思います。

永井 忍氏(社会福祉法人復泉会)・浜松支部)

## 経営理念を見つめる機会に 浜松市内企業見学例会

9月10日(木) 参加23名



くるみっくす 工場見学の様子

富士支部9月例会は浜松地区2社の見学例会、平日の日中という高いハードルを乗り越えた会員が集まりました。訪問先様でも平日の日中に対応頂く事を思えばこそ。

まずは社会福祉法人復泉会KuRuMiX様、障害福祉サービス事業所です。残念ながら製造工程は見学できませんでしたが、それはそれで置いて。永井忍施設長(浜松支部長)の想いを聞かせて頂きました。母体の復泉会の理事としても、絶対の命がけの理念がなければとても運営できないと想像できます。我が社の経営理念にはどれだけ想いが入っているのか、どれだけ命がけなのか見直す機会になりそうです。相田みつをの言葉を借りれば『看板をかかげて歩け看板を だれのものでもない自分の いのちの看板を』。

午後は、ママ友達でごった返すとろろ屋で昼食

沢根スプリング 工場見学  
社員さんによる説明

を済ませ、沢根スプリング様へ。こちらは「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞を受賞した企業です。沢根孝佳社長自ら事業紹介や工場見学にお付き合い下さり、さらに総務

や工程の社員達のホスピタリティ満載のおもてなしは驚きです。後発のばねメーカーが採った策は1個でも注文を受ける仕組みとユニークな戦略。でもそれはそれで置いて。いかにして社員と共に経営をしているか、社員がなぜ仕事に誇りと幸せを感じるのか、何がそうさせているのか。『健康で普通の幸せな暮らし』ができた、とこれまでを顧みる創業者・沢根好孝会長の著書から、「経営はテクニックや数字だけではない」という経営理念のルーツをみつけたり。

小林 修氏 (株)ジープロシューマーズ・富士支部)

## 「坐禅と法話と写経」で修行体験

9月19日(土) 可睡斎 参加8名



中遠支部初の試みとして、袋井市の名利・可睡斎にて「修行例会」を開催しました。

意外と禁欲的に自らを追い込むのが好きな私。でもまずはガイダンスから。わくわくする心を抑えつつ、昼餉には美味で有名な精進料理を無言で堪能。そしていよいよメインの座禅へ。研修所から裸足で廊下の左端を歩き、薄暗い通路を抜けるとそこが修行の場。丸い座蒲をお尻に当て半跏趺坐に。両手を法界定印に、背筋を伸ばし半眼にしてスタート。浮かびくる様々な思いはそのままに、そして次々と捨てていく。思いに捉われない。なるほど、これが「只管打坐」か、なんて。

ほんの束の間でしたが、その後の写経と合わせ、大変貴重な体験となりました。

ああ、また修行したい。

鈴木 弘之氏 (税理士法人 あい会計・中遠支部)

## 第2回同友会まつり in 御殿場

9月5日(土) 高根ふれあい広場・中郷館

今年は晴天にも恵まれ、たくさんの地域の皆さま、大勢の子どもたちに来場して頂き、大盛況の同友会まつりとなりました。当日は御殿場支



部会員企業が数多く出店。小・中学生を対象に地元中小企業の仕事体験してもらうブース、バラエティー豊かなメニューの飲食ブース、普段なかなか間近で見ることができない働く車の展示、実演。さらに同友会まつり実行委員会運営によるマスのつかみ取り体験や支部広報委員会設営による同友会PRブース、乗馬クラブのご協力による引き馬乗馬体験や、地元の小・中・高校性によるステージイベントなど、盛りだくさんの内容でした。

スローガンの中でも謳う「地域に感謝」を目標に行われたこの同友会まつりですが、地域の方々に楽しんで頂いたのはもちろん、将来の地域を担う小・中学生には私たち地元中小企業の仕事を知り、将来この地で働きたいと思ってもらうきっかけ作りが出来たのではないのでしょうか。そして訪れた保護者の方々にも、同友会御殿場支部がこの地でこれほどのパワーを持って学び、企業経営に取り組んでいることを知って頂く良い機会であったと思います。

大川 隆久氏 (フエタ工業(有)・御殿場支部)

## 「何のための経営か」を改めて問う 創る会一泊研修

経営指針を創る会一泊研修会が、9月26日～27日に開催されました。会員でもある御殿場高原ホテルの会議室を会場に、受講生全員とスタッフ・事務局合わせ、計40名が参加しました。

1日目は、これまでの受講で作成してきた「まとめシート」を中心に①わが社の顧客は誰か、どこにいるか。②顧客が本当に求めているものは何か。③自社事業の定義は。④事業は将来どうなるのか。以上4点を考えた上で、経営理念の発表に臨みました。発表に対し、卒業生スタッフから本質を突いた質問や意見が出され、受講生が口ごもる場面もありました。

2日目の発表では、これまで考え抜いてきた経営理念が、皆の意見や助言を受けて徹夜で練り直され、内容が変化していました。自信と確信に満ちた発表からは、人が変革する瞬間を感じます。寝ていないにも拘わらず、清々しい朝を迎えた方ばかりでした。

これから理念にもとづく方針・戦略の構築に移り、2月の最終発表会に向けて、後半戦に入ります。

### 受講者感想

私は、今回の経営指針を創る会一泊研修を終えて、自分の中にあった事業定義における不安感を払拭し、本当に自分の思うべきもの、そして経営理念のあり方を、全てとは思いませんが導き出せたと思いました。私の人生において、こんなに



も素晴らしく有意義な二日間があったということは、今後の会社を運営していく上で大きな糧になると確信しています。スタッフ、受講生、事務局の皆さんと夜通し語り合ったこと、語り合っている姿、本当に真剣に話をされている姿に、今でも感銘を受けております。

以前は「経営理念を、とりあえず作っておけば」と、そんなふうに思っていたのですが、研修でいかに経営理念が大切な想いなのかを、本当に理解しました。私の中にある想いの丈を成文化し、それを実行できる経営指針書の作成に取り組んで行きたく思います。

塩見 康平氏（オミ企画・榛原支部）



### 連載～激動の時代の羅針盤～ 経営指針 第53回

経営指針を創る会を卒業して、早7年が経ちました。当時は、経営というものをろくに知らないままに同友会に入り、創る会で勉強を始めた。この会を通して「経営理念」を作る過程の中で、少しずつ経営者の覚悟ができ、また創業時の熱い思いを再確認できた気がします。また、社員との関わり方、労使見解について初めてじっくり考えるようになりました。その後、紆余曲折はありましたが、今ではスタッフと共に、楽しくコミュニケーションを取りながら、花仕事をしています。

あるとき、「同友会はいつも労使見解のことばかり言っていて、『もう分かった』って思う」と会員の友人にぼやいたことがありました。そのとき「労使見解は一番経営で大切なことなのだけど、一番簡単に忘れがちなことなの。だから何度でも聞いて、その度に思い返して、身に付くまで聞き続けることが大切なんだよ」と言われ、とても納得した覚えがあります。それからというもの、私は創る会にスタッフとして、またその他の会の活動にも、できる限り参加するようにしています。

さて、私が創る会に参加した第4期の当時は、まだスタッフ数もわずかで、本当に指針書は必要なのかな？と迷っていました。しかし3年前に法人の仕事の契約が決まり、チームで仕事に取り組みなければいけない状況になったときに、指針書の意味を実感しました。創る会で会社の軸となる理念や経営方針・計画を作成し、指針書にて成文化したことで、理念や目的が共有でき、そのことがスムーズなマネジメントに繋がり、今の状況が作れたのではないかと思っています。

経営指針を創る会第4期卒業生  
中村 佐和子氏（南フラワーカーカス・静岡支部）

装いを通じ、人と地域をハッピーに！

ISHIKAWA-LABO

代表取締役 石川 英章氏 (三島支部)

事業内容：婦人服小売業、紳士服オーダースーツ

設立：1954年 (昭和29年)

社員数：4名

入会：2014年4月

所在地：三島市一番町20-3

URL：http://ishikawa-labo.com/

ブランドではなくスタイリングで勝負！

洋品店創業62年の3代目を引き継ぐ石川英章氏。大手デパートで14年間ファッション分野を経験し、4年前にブティック石川をリニューアルオープンし、ISHIKAWA-LABOと社名を改めました。

顧客ターゲットは、マス (大量) マーケットではなく、きめ細かな地域戦略を展開する。

35社ものブランドを取り扱いが「決してブランドで売るわけでない、スタイリングで勝負します。装いを通じて人と地域をハッピーにしたい！」とさわやかに言い切る姿は、お客様の安心感につながると感じました。

勝負のカギはTPOにあったスタイル

大人が自分のスタイルにあったスーツを着る事で、仕事やプライベートでも自信につながります。

中小企業のオーナーは、常にトップセラーでもあります。他者に与える印象は、とても重要です。その人にあった服装からは、自信とさわやかさが生まれます。だからと言って東京まで行って服をセレクトまたはオーダーするには、時間がかかり過ぎます。ならば、ISHIKAWA-LABOでセレクトすれば1日という時間を有効に使えます。フィッティング (寸法合わせ) にもメーカーが来てくれるというのだから、有り難いではないでしょうか。



石川 英章氏 (左から2人目)

これからのISHIKAWA-LABO

4年間の実績として、売上をリニューアル前の約2.6倍にのばしています。1店舗で年間売上7000万弱を売るなんて、すごい実績です。お客様の信頼を積み重ねていった結果でしょう。

ファッションの業界全体としては引き続き厳しい状況と思われませんが、キラリと光るスマイルと、発信力と行動力で、石川氏のさらなる活躍を期待しています。

取材・記事 伊丹 克明氏 (株)マルヨ(有)松韻・三島支部

取材・写真 秋田 輝儀氏 (有)システムエイド・三島支部

取材 三田 宏一氏 (有)エムケイテクノ・三島支部

佐藤 浩美氏 (有)佐藤葬具店・三島支部

コツコツ誠実な女性社長がいる超短納期シール屋さん

保坂シール印刷(株)

代表取締役 吉川 真実氏 (静岡支部)

事業内容：シール・ステッカーの提案・デザイン・製版・印刷・加工・出荷

設立：1970年

従業員数：正規4名、パート5名

入会：2003年7月

所在地：静岡市清水区二の丸町7-25

URL：http://www.hosakaseal.com/

業界も驚く超短納期

1968年に先代の社長である保坂譲治氏が創業。吉川氏は二代目社長として継承し15年が経ちます。印刷業の中でも特に食品・表示ラベル、バーコードシール等、様々なシール印刷を手掛けています。女性スタッフが半数以上を占め、電話対応、配達、見積、デザイン等、お客様との接点がある業務は全て女性が行っています。女性ならではの丁寧で優しい対応や気配り、間違いの少なさが同社の強み。また特徴的な強みとして、短納期であることも挙げられます。最短で受注後1~2日で仕上げる、業界では圧倒的な「超短納期」の案件にも対応。製造業で短納期は、最早当たり前のことではありますが、このような強みも今後継続していくとのことです。

2度目の経営指針を創る会受講の決意

同氏は現在、第12期経営指針を創る会を受講しています。社長の強みは「コツコツ、誠実に」。12年前の第1期でも受講し、既に経営理念や方針を作成していま



吉川 真実氏

すが、この間の経営を振り返り、もう一度イチからやり直すべく、2度目の受講を決意。入講からちょうど半年が過ぎ、一泊研修会も終え、日々頭の中で断片的に考えていたことが整理できてきたとのことです。

発信力の強化をめざす

今後の方針として、短納期を追求していくことはもちろん、「発信力」の強化も挙げられました。スピーディーなデザイン提案力、親切丁寧なシールコーディネーターの育成、昨年改装したおしゃれで役立つ情報に接する事のできるカフェラウンジスペース、3Sの行き届いた明るい工場等、ハードとソフトを融合した総合的な自社の強みを、常時ご注文頂いている300社以上の既存のお客様に発信し、幅広く仕事を受けていきたいとのことです。そのために、創る会で経営理念を再度確立し、具体的な経営展開を策定していきたいと抱負を語って頂きました。

藤本 浩氏 (プリントバリュー(株)・静岡支部)

## 新会員のご紹介 (敬称略) 会員数966名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者	氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
おぐり 小栗 まさかず 幹一	日本DMC(株) インフラの点検調査、小型無人機による測量・橋梁点検等、テレビ局への映像提供、CM等の制作	沼津	藤原 博美	しばた 柴田 かずや 和哉	ヤマサン ユニットバス、トイレ、キッチン、ボイラ、エコキュート等のリフォーム	志太	長岡 善章
ひよし 白吉 たつひこ 龍彦	(株)ジャスコム チラシ・パンフ制作、印刷、媒体、広告	沼津	桑崎 雅人	はらさき 原崎 たつや 達也	(有)原崎工務店 公共工事、建築基礎、造成工事、エクステリア、不動産仲介、外構工事	榛原	鈴木 徹
いしばわ 石澤 こういち 浩一	(株)Build East 建築物施工全般、建物調査・診断・改修基本計画、新築デザイン設計、耐震診断・改修設計他	沼津	藤原 博美				

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」にアップします。e.doyuからのご確認をお願い致します。

## 時評 人口減少社会という希望

20世紀初頭に約16億人だった世界の人口は現在70億を超え、今世紀半ばには100億に達すると予測されています。この爆発的に増える命を支えているのは、土壌です。そこで国連は、生態系や農業に不可欠な土壌への理解を深めようと、2015年を「国際土壌年」に決めました。一方で漁業については、秋刀魚の漁獲量が落ちている、とのニュースが聞かれます。中国や台湾からの大型船が日本近海で秋刀魚を取っているせいではないか、とも言われています。世界人口増加の影響が食料を奪い合う段階にまで来ているように思います。

そのような折、静岡共学ゼミのメンバーである竹内昭八氏の推薦図書『人口減少社会という希望』(広井良典 著、朝日選書、2013年)を読みました。その内容は、とても印象的なものでした。日本の人口は2004年の1億2784万人をピークに減少を続けています。いわゆる合計特殊出生率がほぼ現在のまま1.35で推移した場合、2060年の人口は8674万人になると予想されており、人口減少は日本における大きな社会問題として取り上げられます。一方で、日本の人口は2011年時点でなお1億2780万人ですが、例えばイギリス、フランス、イタリアの人口はいずれもほぼ6000万人で、日本の半分程に過ぎません。また、イギリスとイタリアは日本より面積は小さいが、フランスは54万平方kmで日本の約1.5倍。ドイツは面積が日本とほぼ同じですが、人口は約8200万人です。同様の人口規模でも豊かな社会づくりができることの示唆に、人口減少社会への希望を感じました。

世界の人口が増えて食料資源を奪い合うことがなく、秋には美味しい秋刀魚とご飯が食べられる日本に住むことを、私は心から希望します。

小野田 眞 (株)小野田・静岡支部

## 友達の輪 第19回

こんにちは、沼津支部の(有)サンディオス、津賀社長よりご指名頂きました、榛原支部の増田です。津賀さんとは3年前の「経営指針を創る会」にて第9期生として共に受講した間柄です。支部も職種も性格も生い立ちも、似ている部分を探す方が困難なくらい、全く違う津賀さんですが、それ故なのか、私も多くの事を学ばせていただき、今では大切な仲間の一です。

産休後、仕事に復帰したばかりにも関わらず、弊社のホームページ制作等、ブランクを感じさせず精力的に様々なご提案を頂きました。その結果、補助金も無事に通り、この9月からアップすることができ、大変、感謝しております。

そして今、弊社では新たな取り組みとしての事業展開を計画中です。保険代理店としては、前例を聞いたことがありませんが、それ故、まだまだ未知数で「計画」の段階です。焦らず「かたち」にし、津賀さんともお互い刺激しあえるような存在となれるよう私も精進していきたいと思っています。そんな新たな取り組みに対してもお力を貸していただければ、それほど心強いことはありません。今後とも、お付き合いのほど、よろしく願います！

さて、次にご指名させていただくのは、静岡支部の(有)ティーパワーの若杉幸秀さんです。若杉さんとは同友会での活動というより、夜の街で一緒にさせていただくことが多く、頼りになる「兄さん」的な存在です。と、言うことで、若杉さん、よろしく願います。

増田 崇氏 (有)リアス・榛原支部



## 同友会イントロセミナー IN 同友会

9月29日(火) 参加18名

同友会の理念や組織について、簗威頼氏(有)アサギリ・富士宮支部)が説明。「進んで役員を受け、会の中での失敗を恐れず、自社で生かして組織を強くしよう。」と自身の経験を振り返って報告をしました。続いて海野敦氏(海野サッシ商会・静岡支部)は、入会して良かったこととして、息子に継がせたい会社をつくと決意が出来たこと、経営指針成文化後に、方針・計画に基いた経営実践を行っていることを挙げ、仕事の幅を広げている現状を話しました。オブザーバー4名のうち、3名から入会の意思が伝えられました。



海野 敦氏

### 同友会 三つの 目的

1. 同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。
2. 同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。
3. 同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。